

Vol.88 「いじめの未然防止と対応」

前号(kanko ホームルームVol.87)で、20歳以上の男女を対象に学生時代のいじめの有無や発生内容について調査した結果、いじめは昔からあり、誹謗中傷や集団による無視、持ち物を隠すといったいじめ行為は、どの学校においても起こりうる問題であるということが明らかになりました。今回は、いじめ問題の本質的解決に向けて、いじめに対する意識や未然防止も含めた対応について伺いました。



調査概要

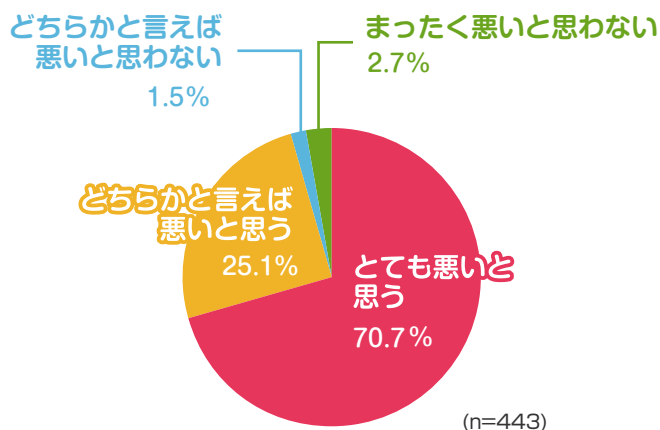
調査対象: 全国の20歳以上の男女443人

調査方法: インターネットリサーチ

実施時期: 2013年2月

Q いじめについてどう思うか

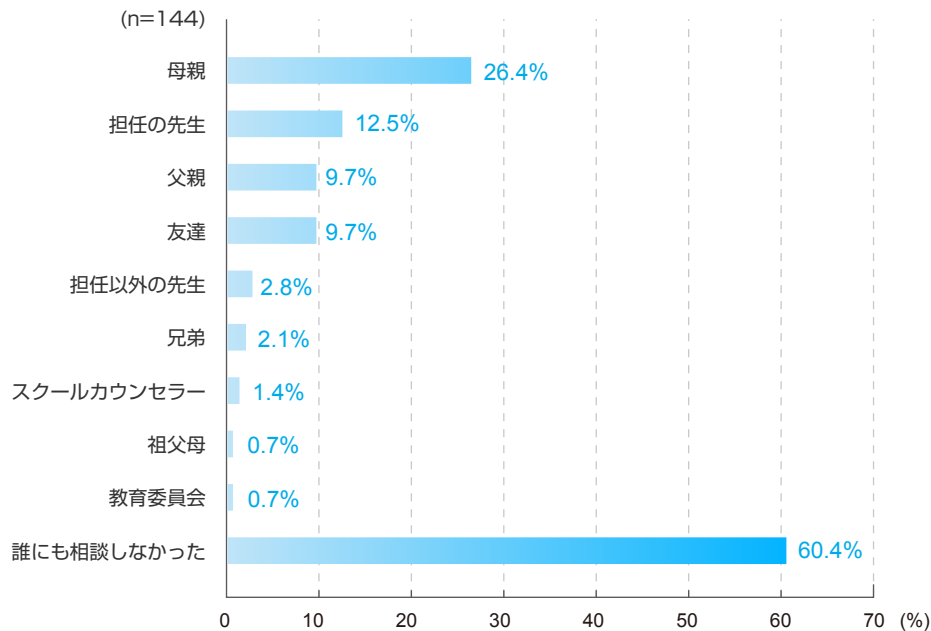
大人になっていじめについて考えると、「とても悪いと思う」という回答が70.7%と大半を占め、「どちらかと言えば悪いと思う」の25.1%と合わせると9割以上(95.8%)が、いじめは悪いことだと回答しています。



【図1】 いじめについてどう思いますか？(単数回答)

Q いじめの相談状況

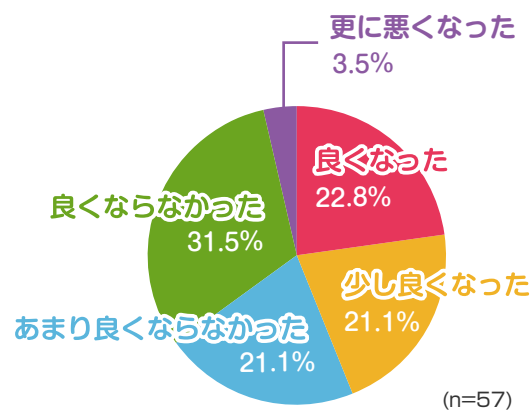
学生時代にいじめを受けた経験が「ある」という人に、いじめを受けていた当時、誰に相談したか質問したところ、いじめの相談相手は「母親」が26.4%と多く、次に「担任の先生」が12.5%という結果になりました。しかし、最も多かったのは「誰にも相談しなかった」という回答の60.4%で、いじめを受けていることを誰にも相談しなかったという人が多いようです。



【図2】 いじめを受けていることについて、誰かに相談しましたか？（複数回答）

Q いじめを相談したことによる状況変化

いじめを受けていることについて、誰かに相談して状況が「良くなった」という人は22.8%、「少し良くなった」という人の21.1%を合わせると4割以上（43.9%）が、いじめを受けていることを誰かに相談をして状況が改善されたと回答しています。



【図3】 誰かに相談して、状況は良くなりましたか？（単数回答）

Q いじめの未然防止と対応

いじめをなくすための取り組みとしては、「いじめはカッコ悪いことだと周囲が教え続ける」、「みんながいじめられた人の立場に立って物事を考える」といったいじめを未然に防ぐ方法や、いじめが発生したときには「一人で抱え込まずに、すぐに誰かに相談する」、「勇気をもって告発する」、「いじめはなくならないので、逃げ場をつくるのが大切」といった行動・対応があげられました。

■ いじめを未然に防ぐ方法


- いじめはカッコ悪いことだと周囲が教え続ける。(女性40代)
- いじめられるという経験を全員が授業などで体験する。(女性20代)
- みんながいじめられた人の立場に立って物事を考える。(女性50代以上)
- ルールを作り、違反者は厳罰に処す。(男性30代)
- いじめた子と、見て見ぬふりをした子も罰則の対象にする。(男性40代)
- 休み時間なども、徹底した教師の監視を行う。(男性40代)
- 家庭でいじめは良くない事を常識的に学ばせる。(男性30代)
- いじめられる人にも問題はあると思うので、いじめられる要因を取り除いてあげる。(女性50代以上)

■ いじめが発生したときの対応

- 一人で抱え込まずに、すぐに誰かに相談する。(男性20代)
- 勇気をもって告発する。(男性50代以上)
- いじめを見つけたらすぐ止める。だめなら先生が止める。(女性30代)
- いじめと親が感じたら直ちに学校に相談する。家庭での親子の関わり合いが大切。(男性50代以上)
- 先生の指導の下でホームルームでの話し合い。いじめの元になる根本的な改善を行う。(女性50代以上)
- 自分がどうしていじめられるのか考える。また、いじめる方もどうしていじめたくなるか知る。(女性30代)
- 周りが逃げ場を作ってあげる。(女性30代)
- 学校に警察をいれるべき。(女性20代)
- いじめはなくならないので、逃げ場をつくるのが大切。(男性20代)

(n=443)

【表1】 いじめをなくすためにどのようなことをしたら良いと思いますか？(自由回答)

 まとめ

新学期がスタートして数ヶ月間は、新しいクラスメイトとの人間関係を構築する時期になります。その過程で、新しい環境になじめない子どもがいるかもしれません。

今回の調査では、20歳以上の男女の9割以上(95.8%)が、「いじめは悪いことだ」という意識を持っていることがわかりました。いじめの相談相手は、「母親」26.4%や「担任の先生」12.5%が多く、誰かに相談をしていじめの状況が改善されたという回答は4割以上(43.9%)になり、勇気を出して相談することが、いじめの解決につながるわかりました。しかし、いじめの相談状況については、「誰にも相談しなかった」という人が約6割(60.4%)と最も多く、「親や周囲に心配をかけたくなかった」、「いじめられていることを誰にも知られたくなかった、恥ずかしい」、「相談をしたら、いじめがひどくなる」、「聞いてくれる人がいなかった」などの理由から、誰にも相談せずに一人で抱え込む傾向も見られました。

いじめ問題の本質的解決に向けては、「いじめは悪いことだ」と周囲が子どもに教え続けることや、「いじめられた人の立場に立って物事を考える」など、いじめを許さない、いじめを生まない風土づくりに努めることが未然防止となり、いじめが発生した場合は、「一人で抱え込まずに、すぐに誰かに相談する」、「周りが逃げ場を作ってあげる」など、いじめを受けている子どもの立場に立って、いじめられている子どもの精神的苦痛を適切に把握し、いじめの早期発見・早期対応がいじめの早期解決につながるようです。

「いじめはなくなる」という意見もありますが、「いじめは悪いことだ」と多くの大人は理解しています。いじめ問題の本質的解決については、学校、家庭、地域といった全ての関係者が一丸となって、いじめのない学校を築きたいものです。

毎月最終
火曜日
更新

kanko ホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

kanko ホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。

ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

検索

<http://ozaki.jp/homeroom/>